



Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 川端亮教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2025, 51, p. 183-188
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100824">https://doi.org/10.18910/100824</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 【定年退職教授の履歴および主要業績】

かわ ぱた あきら  
川 端 亮 教授



かわ ぱた あきら  
川 端 亮 教授

1984年3月	京都大学文学部卒業
1986年3月	大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程修了
1989年3月	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学
1989年4月	大阪大学人間科学部助手
1991年4月	光華女子大学文学部専任講師
1996年4月	光華女子大学文学部助教授
1998年4月	大阪大学人間科学部助教授
2000年4月	大阪大学大学院人間科学研究科助教授
2004年4月	大阪大学大学院人間科学研究科教授
2007年4月	大阪大学評価・広報室員
2012年4月	大阪大学教育研究評議員・人間科学研究科副研究科長
2012年4月	大阪大学理事補佐
2015年9月	大阪大学副理事（総合計画室員）
2017年8月	大阪大学副理事（計画評価オフィス員）
2018年4月	大阪大学大学院人間科学研究科長
2018年4月	大阪大学総長特命補佐
2019年4月	大阪大学経営協議会委員
2025年3月	大阪大学名誉教授（予定）

川端亮教授は、1984年3月京都大学文学部哲学科社会学専攻を卒業し、1986年3月に大阪大学大人間科学研究科博士前期課程修了、1989年3月に同博士後期課程を単位取得退学し、同年4月に大阪大学人間科学部助手に採用された。その後1991年4月に、光華女子大学文学部に専任講師として転任後、1996年4月同助教授に昇任した。

そして1998年4月に大阪大学人間科学部助教授に着任し、2004年4月に大阪大学大学院人間科学研究科教授に昇任した。この間、2003年に大阪大学より博士（人間科学）を授与されている。その後、2012年4月から2014年3月まで大阪大学大学院人間科学研究科副研究科長、教育研究評議員を務めた。2012年4月からは大阪大学理事補佐、2015年9月から2018年3月までは、大阪大学副理事を務めた。そして2018年4月から2020年3月まで、大阪大学大学院人間科学研究科長を務めた。以上のとおり、川端教授は大阪大学と人間科学部・人間科学研究科の発展に尽力し、2025年3月定年退職し、大阪大学名誉教授となる。

川端教授の研究領域は、宗教社会学である。特に宗教意識の構造の実証的解明の研究や宗教教団の信者の入信過程、信仰が深まる過程の研究において、多数の著しい業績を残している。新宗教教団の長期にわたる調査に基づく研究の一つとして、真如苑の研究があり、他の新宗教教団が教勢を伸ばせなくなった1970年代以降に急成長した真如苑の特徴を明らかにした。この教団が強調する「靈能」の意味と機能を、学術的な用語や方法で解明した点が特筆される。また創価学会の研究ではアメリカでの布教に注目し、キリスト教、特にプロテスタントの信仰に熱心なアメリカで、日蓮仏法である創価学会を信じるアメリカ人が、どのようにして生まれたのかを組織論や個人の信念の転換などの観点から明らかにした。宗教研究において、質的調査、量的調査の両方を用いる方法は、社会調査全般に関する質的調査と量的調査をつなぐ計量テキスト分析へと発展した。この他、階層意識、災害支援・地域復興活動など現代社会学に幅広い功績があった。さらに社会調査データアーカイブの提供など社会調査データ解析のインフラストラクチャーの整備と活用の研究を行った。

大阪大学の管理運営に関しては、大阪大学の法人評価の業務に2007年からおよそ10年間かかわった。とくに第2期中期目標期間における法人評価においては、評価書の作成の主要メンバーとなり、大学全体の評価書をとりまとめ、その結果として、大阪大学は非常に高い評価を得た。また人間科学研究科の評価室長としても第2期の人間科学研究科の評価書の作成を主導し、国全体の評価結果の概要の研究において「期待される水準を大きく上回る」研究科として取り上げられた。さらに、大阪大学の評価結果書においても特記すべき優れた点として、人間科学部・人間科学研究科は教育で3項目、研究で2項目、国際交流で1項目取り上げられた。人間科学部・人間科学研究科の管理運営に関しては、研究科長および副研究科長の計4年間、執行部として部局運営に深く関わった。研究科長の時には、立ち上がって3年目の共生学系と未来共創センターの発展に努め、学際的な知の探究から、実践性と国際性を備えた人材を養成できる学部・研究科を目指した。その他、教育活動では、指導教員として多数の学部学生の指導に当たり、大学院生の教育・研究指導においては、同じく多数の修士論文主査のほか、課程博士論文主査25本、論文博士主査7本を担当し、優秀な学生を社会に送り出した。とりわけ多くの社会学分野の研究者を輩出したことが特筆され、課程博士で博士号を取得した指導学生のうちの20人が、東京大学、北海道大学、関西学院大学、関西大学、立命館大学などの全国各地の大学で教鞭を執っている。

社会的活動では、大阪大学教授在職中に、社会調査協会副理事長、日本宗教学会理事、一般社団法人地域情報共創センター理事などの要職を務めた。とくに「緒方洪庵」という商標を愛媛県西予市野村町の緒方酒造から譲り受け、大阪大学の公式グッズの日本酒「緒方洪庵」として新生復活させるとともに、西予市野村町の災害復興支援活動の象徴として広めている点は、大学の新しい社学連携、社会貢献の形として注目される。

以上のように、川端教授は、人間科学部・人間科学研究科の教育、研究、運営を通じ

て、その充実と発展に寄与するとともに、社会学領域における学術研究と社会貢献の両立を通じて、学術振興に大きく貢献された。

## 主　要　業　績

### 主要著書（分担執筆）

1. 秋庭裕・川端亮（2004）『霊能のリアリティへ—社会学、真如苑に入る—』新曜社.
2. 川端亮編（2010）『データアーカイブ SRDQ で学ぶ社会調査の計量分析』ミネルヴァ書房.
3. 川端亮・稻場圭信（2018）『アメリカ創価学会における異体同心』新曜社.
4. Kawabata, A. and K. Inaba (2023) “Many in Body, One in Mind: The Journey of Soka Gakkai in America” Osaka University Press.

他 20 編

### 主要学術論文

1. 川端亮（1989）「宗教意識の構造—千里ニュータウンの調査結果から—」『ソシオロジ』34 (1), pp. 37–63.
2. 川端亮（2001）「コンピュータ・コーディングによる宗教的ライフヒストリーの記述」『宗教と社会』7, pp. 133–154.
3. Kawabata, A. and Y. Akiba (2001) Deep into the Shinnyo Spiritual World, *International Journal of Japanese Sociology*, 10, pp. 5–15.
4. Kawabata, A. (2004) Using Computers to Analyze Textual Data in the Study of Religion, *Religion and Society*, Special Issue, pp. 12–18.
5. Kawabata, A., and T. Tamura (2007) Online-Religion in Japan: Websites and Religious Counseling from a Comparative Cross-Cultural Perspective, *Journal of Computer-Mediated Communication*, 12 (3), pp. 999–1019.
6. 川端亮・秋庭裕・稻場圭信（2010）「SGI-USA におけるアメリカ化の進展—多民族社会における会員のインタビューから—」『宗教と社会』16, pp. 233–244.
7. 横井桃子・川端亮（2020）「宗教は文化活動を支えるか?—SSP2015 調査データによる実証研究—」『社会と調査』24, pp. 53–63.
8. Watanabe, M., A. Kawabata, and T. Yumiyama (2022) Cross - Cultural Commonalities in Religiosity by Measurement Invariance, *Journal for the Scientific Study of Religion*, 61 (3–4), pp. 690–709.

他 36 編

計 68 編